

セブンスデー・アドベンチスト教団



アドベンチスト

はらしゆく

October

10

「イスラエルの世代交代」

横須賀教会牧師 川越 勝



出エジプトをし、約束の地カナンに向かって旅行したイスラエルの人々の体験は、天のカナンに向かって旅行している我々霊的イスラエルに素晴らしい教訓を残しております。聖書の書名の一つである「民数記」は民を数えた記録が記されています。

実は、この数には大切な考えるべき点が含まれています。出エジプトをして1年後に神様は、「イスラエルのうちで、すべて戦争に出ることのできる二十歳以上の者を、あなたとアロンとは、その部隊にしたがって数えなければならぬ」(1:3)と言われました。45節を見ますと、60万3550人と書いてあります(当時は男性のみ数えています) 月日は流れ約40年後にカナン入りが近くなった時、神様はまた人口調査を命じておられます。その結果は60万1730人でした。

私はこの数字は非常に面白いと思っております。約40年前と大体同じなのです。これを見てある人は「彼らの人口は横這いであった」と思うでしょう。数字の上からは確かに横這いです。日本で40年前と今が大体同じ人口ですと「ああ、横這いですね」と思うでしょう。ところがこれは、今の日本の人口横這いとは全く意味が違います。

2000年の例をみますと、日本では118万人が出生し、96万人の方が亡くなっています。そして人口は1億2628万人です。人口に対して出生は0.93%で死亡は0.76%です。26章の63節以後を見ますと、2回目の調査の時に数えられた人で、1回目の調査の時に数えられた人はヨシヤとカレブたった2人だったこと

が分かります。ということは、この60万の人は、ほとんどの人が途中で生まれた人なのです。イスラエルは完全に世代交代してカナンに入国したのです。

1回目の時20代だった人は2回目には60代で数えられるはずですが、30代も少かりです。しかし、2人を除いては生きていませんでした。日本の年間死亡率0.76%を当てはめると、60万の人口であれば死亡者は年間4560人で、その40倍は18万2400人ですから、40年で60万人が亡くなったというのは異常なことです。それと同じように、出生が0.93%ですと、年間出生は5580人で、40倍しても22万3200人で到底60万にはなりません。日本の人口横這いとは全く意味が違うと言ったのは、ここに理由があります。今の日本より遥かに出生率は高かったのです。沢山の人が生まれているのです。日本とは比較にならないほど、沢山の人が亡くなっています。

どうしてその様なことになったのでしょうか。寿命・病気、戦死や事故で亡くなった方がおられるでしょう。しかし多いのは、主にに対する反逆です。14章を見ますと、斥候によるカナン偵察報告後、人々が荒野で死ぬこと、子供たちがカナンに入ることが主によって言われ、その様になったのです。主に従うことが大切なのです。

(川越先生は、10月1日付で、横須賀教会でご奉仕なさることになりました。...編集部)

†追悼†長岡彌助さん

「亡き妻のあとを追って」

園田 夏

8月29日、長岡延佳さんから「父が亡くなりました。」と悲しい知らせを受け驚きました。その日、夕食を二人ですませ、あとお風呂に一人で入り、上って来られるのがおそいので、浴室に行ってみたら、お湯の中に沈んでおられたとか。必死でお湯から引き上げ、水を吐かせたり、人工呼吸を施したりしたそうですが、とうとう亡くなられたそうです。

延佳さんも、どんなにか驚き悲しかったか、その様子が目に浮ぶ様です。2月に妻のすゞ子さんが亡くなられて以来、彌助さんは、長年愛するすゞ子さんと過されたその思い出多き家を離れようとなさらず、毎日妻の写真に「ばあさんやー、ばあさんやー。」と語りかけながら、一人寂しく暮らしておられたのです。長女の由子さんのお家へ行っても、延佳さんのお宅へ行っても、すぐ帰りがられたとか。長岡夫妻は実に、仲の好い御夫婦で、彌助さんは、何から何まで、奥様に依存しておられた様で「一人では、電車の切符も買えないのよ。」と、すゞ子さんがよく話しておられました。だから妻亡きあと、どんなに心細く、淋しかったことが、みていて

も、痛々しい限りでした。「早くすゞ子と共に、眠りたい。」そんな思いでおられたのか、2月に亡くなった妻のあとを追う様に、僅か半年後の8月に眠りにつかれたのです。

彌助さんは、おだやかな優しい方で、いつもニコニコしておられるので、うちの孫正人も、とてもなついていました。安息日の午後、長岡夫妻と我が家族は、共に昼食を頂きました。「長岡おじいちゃま。」と膝に抱かれたり、眼鏡や補聴器をいたずらしては、ママに叱られたり。でも彌助さんは、正人のするまゝに、さも可愛くてたまらない様な目をして、みつめていて下さいました。

お孫さんが大きくなってしまった彌助さんと、自分のお祖父ちゃまを亡くした正人は、大の仲好しでした。告別式の日、正人は、「どうしても、もう一度長岡おじいちゃまのお顔がみたい」と言って、一緒に行き、小さい眼に涙をためていました。

でも、私達には、御再臨の日、又みんなでお会い出来る希望が、あります。それ迄「安らかに眠り下さい。」と祈るのみです。

聖句と私

何度、救急車のお世話になったことだろうか。

我が家には二人の子供がいる。下の子は、そのたくましい身体つきに似ず、病気を繰り返してきた。突発性血小板減少性紫斑病、腸重積、……。私には初めて耳にする病気ばかりだった。

私は救急車で運ばれたことがない。病気で入院したこともない。大きな病気もけがもない。しかし私の子は2歳にして、こと病気に關しては私よりも多くの経験を積んでいる。

なぜこんな病気にかかるのか、なぜ入院しなくてはならないのか、なぜこんな目にあうのだろうか。出来ることなら自分が代わりたいたいと思う。そんな時に、この聖句を思い起こさずにはいられない。

「女がその乳のみ子を忘れて、その腹の子を、あわれまぬようなことがあるか。たとい彼らが忘れるようなことがあっても、わたしは、あなたを忘れることはない。」(イザヤ書49章15節)

新井 直樹



カリーンさん、ロアンさんを改めてご紹介します - 英語学校で教えています。ドウソ、ヨロシク！ -

来年8月まで、この二人で英語を教えます。ロアンは、昨年から引き続き、もう1年教えます。カリーンは今年8月に日本に来たばかりですが、台湾で1年半、ロシアで3年間、英語を教えた経験があります。よろしくお願いいたします。(英語学校 府録智子)

Calene Williams

カリーン・
ウィリアムズ

カリブ海の
アンティガ島から
来ました。



Roanne Naidoo

ロアン・
ナイドゥー

南アフリカの
ヨハネスブルグから
来ました。

カリーン

今年の8月。
ロシアのハバロフスクで、3年間、
英語の教師をしていました。
以前、日本に観光に来たときに、
日本の文化に触れて感動し、日本
で宣教師として働きたいと思い
ました。
夏の暑さに驚きました。

何でも手に入って、便利なところ
です。
生徒さんに、英語を教えるだけで
なく、神様のことを伝えたいです。

スパゲッティ。

「エレミア書」29章11節。

Day by Day (フレンズ29番)

Questions

日本へはいつ？
日本に来る前は、
何をしていましたか。
どうして日本に来よ
うと思ったのですか。

日本に来て、いちば
んびっくりしたこと
は？

日本のいちばん気に入
っていることは？
今、いちばんやりた
いことは？

好きな食べ物。

好きな聖句。

好きな讃美歌。

ロアン

昨年の6月。
ヨハネスブルグの法律事務所で、
弁護士秘書をしていました。
違う文化に触れ、違う言葉を学
びたいと思いました。でも、何
よりも、神の働き人になりたい
と思って来ました。
宣教師の部屋が狭いこと。日本
人がみんな同じ顔に見えたこと。
でも、もちろん今は違いがわか
ります。

何でも歩いて行ける距離にあっ
て便利なところ。安全なところ。
神様の言葉を伝え、主、生徒さ
ん、教会員の方々と、すばらし
い関係を持つことです。
カレーとごはん。日本食はお好
み焼きといなりずし。

「ローマ人への手紙」
8章38、39節。

In the Garden
(SDA英語讃美歌487番)

茂木加織さん、岡崎要さん、中居徹雄さん、 バプテスマおめでとう！

9月14日(土) 板東洋三郎先生の司式により、バプテスマ式が執り行われ、若い家族が3人誕生しました。当日の礼拝は、9月7日から始まった特別講演会の講師、リー・ザイリョン先生(アジア・北大平洋支部 NSD 公衆伝道者)を説教者としてお迎えし、TICとの合同で行われました。この記念すべき日に聖堂を埋めた、大勢の皆さんの祝福のうちに受浸された茂木さん、岡崎さん、中居さん、おめでとう！

「愛する神様へ」

茂木 加織

ありがとうございます。私は、神様がよくご存じのように、とても小さく拙く、罪に汚れたどうしようもなかった者です。けれども、そんな私を暗闇の中から捜し出して下さり、尊いイエス様の命を犠牲にしてまで私を救い出して下さり、大きな愛の限りなく優しい御手により包み守り導いて下さり、ありがとうございます。

私は自分自身が暗闇だった時、何を求めるべきかも分からないような者でした。けれどそんな私に、神様は聖霊様によって罪の恐ろしさに気づかせて下さり、自分自身の罪、どうしようもなく醜い私を示して下さい、そんな私でも愛して下さい、色々な方法で示して下さいました。

真実に導くためにこの東京中央教会に導いて下さったことすら、私自身が教会を捜し求めた訳でなく、お導きによってTICのショーン・ラシュビーという友達を通して、英語に興味のある私を教会に送って下さったのでした。私が全て理解出来る訳でもないマーク先生の英語の説教に通ったり通わなかったりという時にも、横山絢子さんや永田早苗ちゃんをはじめとする多くの友達を通して、辛抱強く導いて下さいました。

罪に染まった生活をしている私に、自律神経失調症という弱さを与えて下さり、罪の恐ろしさを教え、その度ごとにめまいを起こさせて下さり、立ち止まり危険な道に進み過ぎないように守って下さいました。

罪の恐ろしさ、そこから逃れられない無力な自分を感じるほどに神様へ近づくことを恐れ多く感じてしまった私を、神様はその御手で愛して下さい、辛抱強く優しく私への大きな愛を示して下さいました。そして無力な何も出来ない罪深い私でさえ、計り知れないほどに愛して下さい、そのおかげで、私は、私自身の醜さ、弱さ、愚かさ、気づくことができました。私を絶えず求めて下さる天のお父様の優しく深い、大きな限りない愛に心から感謝します。

『わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招くためである』(マタイ9:13)

『ヤコブよ、あなたを創造された主はこう言われる。イスラエルよ、あなたを造られた主はいまこう言われる、

「恐れるな、わたしはあなたをあがなった。わたしはあなたの名を呼んだ、あなたはわたしのものだ。」(イザヤ43:1)』
神様、永遠にあなたのものであることをありがとうございます。

空虚な思いを抱き、やりきれない気持ちで自分を痛めつけているすべての人達が優しい限りない天のお父様の愛によって救われ、喜びでいっぱい微笑みを浮かべられますように。

— あなたに愛されている子供より —



「『信じたい』から『信じます』へ」

岡崎 要



かつて、好きなものはお金と数字、嫌いなものは人と文字でした。私は経理屋です。収入は恵まれているほう。残業代も多くもらえる。一日十数時間、数字とにらめっこ、無表情で口をきかない。そんな生活が続きました。体が疲れだすのにさして時間はかからず、仕事量も責任も増え、ほとんど無休の日々となりました。やがて、さすがに「もう、お金はいいから人間らしい生活がしたい」－切実にそう願い始めた。しかし“超忙”の毎日。そんな折に色々世話になったのが中居徹雄君です。帰宅不能のため、彼の住まいに泊めてもらうこと一再ならず。彼の生活に重要な位置を占めるらしい聖書や教会のことを知り始めました。話してくれる中居君の顔の明るく輝いていることと叫びたい。たまたま、教会に連れて行ってもらうことにしました。今年1月半ばのことです。教会は“休める所”でした。

マタイ 11章28節

とはいえ、仕事のほうの“重ストレス生活”は続く。土曜に神経が休まっても、週明けには疲れた体となる。この繰返しでした。

5月のGWに少し休めたものの、その後は徹夜も続く状況となり、やがて、頭痛・腹痛等、極度の体調不良が2週間。このとき帰り着いた先は自分の部屋ではなく、なぜか教会でした。そして聖書に向かう。たまたま開きやすくなっていたページ、それがマタイ11章28節でした。「すべて重荷を負って苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう」...安らぐ思いでした。休息の時が来たのです。

今は、あの不調時に「抑うつ状態」と診断されて以来そのまま休職中ですが、この状況は偶然によるものではなくて、大きな力によって導かれたものだと思っています。

韓国の青年たちの奉仕ぶり、そして...

Beehiveに毎週のように顔を出すうち、この7月、韓国から中央教会に十数名の若者が来ました。外国での彼らの澁澁とした奉仕ぶりには

目を見開かれる思いで、徹底的な語学拒否症だったのが、これをきっかけに韓国語の勉強を始めるようにさえなりました。この経験は、教会への距離をぐんと縮めてくれたと思います。

やがて、私にとっての決定的なイベントの時が来ました。リ・先生の特別講演会です。講演会は、それまでの思い、すなわち「信じたい」を「信じます」に変えてくれたのです。実は、以前から土曜夜のハンドベルの練習が楽しんでいたのですが、幸運にもその成果を、講演会初日の特講で披露できるという機会に恵まれました。このことがなかったら、講演会に参加することはなかったと思います。

恵みの出会い

この頃私は「神様を信じたい。信じて受け入れたい」という気持ちと、もうひとつ「自分の力で頑張る、そのための十分な“資格”を得ておきたい」という気持ちの中で揺れ動き、結論が出せず苦しんでいました。

講演会第二日の8日にも行けず足踏みをしているところへ、一本の電話。それは何と、リ・先生からで、講演がお休みの時に会って下さるというのです。そして先生は私のために時間を割いて話を聞いて下さいました。こうして私は講演会に再び出席するようになりました。

11日水曜日、先生を通しての神様のメッセージは凄かった！ 聖書が語る真実が証しされていました。人の力では及ばない不思議の数々を存分に味わってきた私は、これで全てを信じる事ができたのでした。

先に受浸を決意した友から「神様は信じざるを得ない状況に私たちを追い込んで下さる」というコメントをもらっていましたが、全くそのとおりでした。数々の出会いと試みのどれか一つでも欠けていたら、今の状況はなかった。時になかったお導きに、感謝の念でいっぱいです。

「これほどの喜びとは！」

中居 徹雄

教会に来たきっかけ ~平墳直子さん~

去年の11月初旬に“Beehive Live”の案内を初めていただきました。それは、およそ2年ぶりに教会を訪れるきっかけとなりました。

でも実は、案内を受け取ってから実際に教会を訪れるまでに約2か月かかってしまい、その間、行くか行かないかで随分迷いました。

というのは、板東先生のもとで聖書研究を始めていたにもかかわらず、一方的に諦めて、特別にお断りもせず、行かなくなってしまっていたからです。僕は、仕事やさまざまな誘惑のほうを選択したのです。板東先生にとっても失礼なことをしてしまったという思いと、とても自分は教会へ行ける人間じゃない、ふさわしくないし、また同じことを繰り返すのではないかという思いにさいなまれて、足はなかなか前に進まなかったのです。

しかし、そういう経緯をすべて平墳直子さん（会社の同僚で、雅子さんの妹さん、入間川教会）は知っていたはずなのに、僕を招いてくださった。それまでほとんどコミュニケーションがなかったにもかかわらず、です。そのときはまだ、彼女の意図が僕にはよく分かっていませんでした。熱心に誘ってくださっているのがよく分かるので、彼女の期待を裏切りたくないと思いつつも、その一方で、行けるわけがないという気持ちも強く、ついつい長く思いとどまってしまったのです。

でも、2001年も終わろうとしていたある日のこと、やはり神様はついに僕の足を向かうべき所に向けてくださったのです。そして、板東先生との再会。先生が、何もなかったかのように、笑顔で迎えてくださったことが、とても嬉しかったのを覚えています。

Amazing Grace ~バプテスマ~

岡崎要くんも僕も、茂木加織さんにつづいて決心ができ、晴れて三つ子になれる日が来まし

た。決心したときと違って、この日は大きな感動を受けるなんて、まったく思っていませんでした。しかし、神様は私たちの想像を超える、偉大で慈愛に満ちた方であることを、また知ることができました。

リ-先生はこの日の礼拝を、三つ子のための特別なものにしてくださいました。それだけでも十分に素晴らしいことなのに、なんと永田早苗さんが式後、板東先生の問いかけに応え、歩み出していたのです。

彼女の健康や学業そして信仰のことは、横山絢子さんや茂木加織さんをはじめ、ハンドベルグループ「詩音」のメンバーみんなの祈りでした。だから、彼女の奇麗に背筋の伸びた姿、強い意志を秘めている姿を見て、嬉しくて嬉しくて涙が止まりませんでした。隣の加織さんも同様でした。

式の後、本当にたくさんの人達から祝福を受けました。多くの人に笑顔で感謝の気持ちを表すことができましたが、やはり、何人かの人には、涙や抱擁なしには気持ちを語れないほどでした。

本当に、このバプテスマ式の間ほど感激して涙をたくさん流したことはありません。やさしい神様は、最後の最後まで、僕達を持ち運ぶことをおやめにしないことをお示しく下さいました。本当にバプテスマを受けてよかったと思います。



原宿彩

さア、教会バザーです!

「良い品が揃ってる!」

「安い!」「食事も美味し

い!」- 今や原宿名物となった当教会のバザーが、来たる10月27日(日)午前10時から午後2時まで開かれます。その準備のため、以下の日程で、出品の整理、値付けをいたしますので、皆様のご協力をよろしく願いいたします。とくに男性の力が必要です!

10月6日(日) 20日(日)

午前10時~午後3時

於地下1階

短時間でも結構です。

なお、献品は10月13日(日)までにお届け下さい。贈呈品、手作り品、日用品、衣類などをご提供下さい。ただし、とくに衣類については、新品、または新品に準ずるものに限りませす。

毎年、開始時間前にお越しになる方々をはじめ、“常連”のお客も少なくありません。ご期待に応えられるように、中央パワーで、秋の原宿名物を盛り上げましょう!

ADRA、表彰される

1999年3月、「人道的介入」という大義名分のもとにユーゴスラビアへの空爆が3か月にわたって行われました。ADRAも、空爆終了直後の6月にアルバニア、そして7月にはコソボに入り援助活動を始めました。多くの団体が緊急救援という名のもとに数か月の活動だけでコソボを去っていく中、ADRAは多くの支援者や国際機関の協力を得て開発復興まで活動を3年間続け

ることができました。この間ずっと考えてきたのは、コソボに住む人の、コソボに住む人による、コソボに住む人のための活動だということです。「援助」は一方的に与え、一方的に受けるものと思われがちです。しかし開発復興の主役はそこに生活する人でなければならないのです。また、3年間で、延べ約60人の日本の青年たちを受け入れてきました。日本では決して学ぶことのできないことを彼らは学ぶことができたと思います。

ADRA Japanでは、この地に渡部真由美さんをスタッフとして派遣しました。3年の間には辛いこと悲しいこと、たくさんありましたが、多くの方の支えで一つ一つ乗り越えることができました。渡部さんと私との間で交わされたEメールは5000通近くにもなります。彼女は何度投げ出したいと思ったことでしょうか。でも、そのたびに続けていこうと思ひ直すことができたのは、子供たちの笑顔があったからです。

この9月11日、目的を見失うことなく着実に進めてきた活動が、「外務大臣表彰」という形で表彰を受けました。でも、コソボの地で特別なことをしたとは思っていません。一番祝福を受けたのは自分ではないかと思うほど、多くのことを学んだ3年間でもありました。

多くの方々の祈りとご支援によって支えられましたことを感謝します。(橋本笙子)

シャリーンさんは台湾でご活躍中

昨年7月から英語学校でご奉仕し、この8月上旬祖国南アフリカに帰ったシャリーン・マヒューズさんは、その後台湾で、再び教師としてご活躍中です。「多忙ながら充実した日々です。教会の皆様によりしく」とのお便りが英語学校に届きました。ますますのご健康とご活躍をお祈りいたします。

俳句
何故か撫子愛なでしこめでしつ亡夫ま偲まぶ
三日月をみよと孫呼ぶ縁先で
六甲の山へ向えば霧深し
(夏)



バイブル豆事典

「ぶどうからのメッセージ」

ぶどうの美味しい季節となりました。イスラエルではぶどう、オリーブ、やし、ざくろ、いちじく、大麦、小麦が国家を象徴する作物です。中でもぶどう、ぶどうの木、ぶどう園は頻りに聖書に出てきます。ノアが洪水の後、まっさきに作った作物もぶどうでした(創世記9:20)。このぶどうの木はキリスト教の信仰の形をよくあらわしてしているのではないのでしょうか？ぶどうの木の根は、8年から10年かけて、長いもので25m、地下に伸びていきます。栄養分をたっぷり含んだ地下水を求めて伸びていきます。地下水の水位が高いと、求めなくても十分水分を取れるので深く根が入っていきません。すると根が浅くなり甘味が少なく、美味しい実をつけることはできません。反対に根が深く入っているぶどうは味もよく、なかなか枯れることもありません。驚くことに美味しいぶどうを産出する地方は、すべて土壤が貧弱で耕作が困難な地域だそうです。また、冬の前にかなり思い切った剪定をすることも、美味しい実を結ぶためには不可欠です。これを怠ると実のなる枝が春に出てきません。ぶどうの木は良い実を結ぶため、このような厳しさを経験するのです。私たちの土壤も生きる厳しさがあります。その厳しさの中でぶどうの木は私たちに語りかけている気がします。「命の源であるイエス・キリストを求めなさい。神の恵みによって必ず良い実を結ぶことができる」と。

(東京中央教会副牧師 ウォーターズ・今日子)

10月のスケジュール

- 10/ 5 (土) [説] 板東洋三郎牧師 & 子供のお話
役員会
家庭会セミナー 14:30~ 集会室
講師：安積力也先生
小羊クラブ 14:00~ 15:00
/ 6 (日) バザー準備 10:00~ 15:00
/ 12 (土) [説] 花田憲彦副牧師 & 野外子供礼拝
週報 & アドベンチストはらじゅく発送
/ 18 (金) ~ 20 (日) 青年会修養会 (軽井沢)
/ 19 (土) [説] 板東洋三郎牧師 & 子供のお話
讚美と証の会
小羊クラブ 14:00~ 15:00
理事会 15:00~
/ 20 (日) バザー準備 10:00~ 15:00
/ 26 (土) [説] 塚本俊也牧師 & 子供のお話
/ 27 (日) 教会バザー 10:00~ 14:00

教会のホームページを開設しています。

<http://www.sda.gr.jp>

エデン ED園だより

秋真っ盛りです。高く澄み渡った天の下、近郊の畠では黄金色の稲穂が刈り入れを待っています。葡萄の房は重くなり、柿の実の色づいてきました。冷房に頼らない爽快さがうれしい季節です。先月半ばの礼拝を挟んでの6夜は、リー・ザイリオン博士にメッセージを伝えて頂いた伝道講演会でした。TICとの合同運営で豊かな実りを得られましたこと、主に感謝いたします。新たに神の家族となった若い兄弟姉妹を共に支えて参りましょう。(Yo)

発行：東京中央教会コミュニケーション部 * 発行人：板東洋三郎 * 編集人：前中靖司
[住所] 〒150-0001 渋谷区神宮前1-11-1 03-3402-1517

* スタッフ：久木田明夫・佐藤敏子・寺内雅子・芳賀洋・平山茂子・森武靖子・山口保夫